

## 今月の一言 NO.228

### キーワード：気づかせ屋

「人間の最大の悪とは何か。それは鈍感である」と、私はよく言う。一流になる人間は、例外なく「感じる力にすぐれている」凡人なら見逃してしまうような変化、差異に気づくからこそ、人より秀でることができる。「感動」とは「感じて動く」と書くように、感じる事が行動を生み出すのだ。

ところが、教えられることに慣れてしまうと、「教えてくれるのが当然」と考えるようになり、感じる力は確実に鈍くなる。感じる力が鈍れば、自ら考え、能動的に行動することもなくなる。依頼心は感性と思考能力を著しく衰えさせる。当然、進歩も止まってしまうのだ。だから、監督時代はコーチたちに言い続けた。

「教えたいという、きみたちの気持ちはわかる。だが、まずは選手にやらせてみなさい」人間は失敗してはじめて、自分の間違いや至らなさに気づく。自分で気づく前に教えられても、必要だとは思っていないから真剣に聞く耳を持たない。

たとえ自分では聞いているつもりでも、必要に迫られなければ頭に残らないというのは、学校時代の勉強を思い出せば容易にわかるはずだ。失敗してこそ、「それまでの自分のやり方は間違っていたのではないか」と考え、進んでアドバイスを聞こうという前向きな姿勢が整うのである。

「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない」ということわざがあるように、本人に「なんとかしたい」という意識が芽生えないかぎり、周りがいくら教えても身につくものではないのである。

とすれば、指導者が第一にするべきことは何か・・・選手自らが「気づく」ように仕向けることである。だからこそ、つねづね、私は口にしてきたのだ。

「監督業とは、”気づかせ屋”である」と・・・。

著書：リーダー論 著者：野村 克也

## 感じて動く。今日より明日！

令和2年12月25日

さいのう とおる

追伸：一年間ご苦労様でした。リセットして、新しい年を新鮮な気持ちでスタートしよう！